

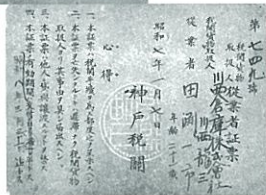


絹糸の出荷検査風景 (昭和初期)



綿花の荷役

神戸港の綿花輸入は、明治20年代から増加が始まり、大正後期の市内繊維工業の台頭とともに神戸を代表する輸入品となった。



税関貨物取扱人従業者証書

*時、税関貨物取扱人従業者数は全国で約1,800人であった。



輸出樟腦のラベル

神戸に樟腦工業が興ったのは明治初期である。以来、大正、昭和と神戸の特産輸出品として、アメリカ、インド向けを中心に全国輸出シェアの大半を占めた。



輸出用粗紡糸、絹糸の商標

港戸神にかすき

昭和十年の貿易

十七億三千万圓

大正十四年來の躍進ぶり

世界第三位の貨祿

昭和十年の貿易は、大正十四年來の躍進ぶりを示すもので、世界第三位の貨祿を記録した。これは、大正十四年來の貿易の平均額に比し、約二倍に達したことを意味する。この躍進は、日本の工業生産の増進と、海外市場の拡大によるものである。特に、絹糸、綿花、樟腦などの輸出が、貿易の中心を占めた。また、輸入品も増加したが、輸出の増加がそれを上回った。この結果、貿易収支は黒字となり、日本の経済はますます強固となった。